

戦後処理と(としての)移民行政

日時: 2018年6月5日(火) 13:20～14:50

場所: 神戸大学 国際文化学研究科E410・学術交流ルーム

講師: 朴 沙羅 氏 (神戸大学国際文化学研究科 講師)

報告内容:

昨年度から継続して、出入国管理体制の成立に関する国際比較についての調査と、重国籍者の抱えるトラブルについて文書の収集・インタビュー調査を行ってきました。これらのうち、出入国管理体制の成立に関する国際比較を歴史認識問題と接続できないか(するべきか否か、どのように接続できるか)検討中です。検討の内容を報告します。

報告者プロフィール:

2013年京都大学文学研究科博士後期課程研究指導認定退学。移民・エスニシティ研究。単著に『外国人をつくりだす：戦後日本における「密航」と入国管理制度の運用』（ナカニシヤ出版, 2017年）。翻訳に『オーラルヒストリーとは何か』（水声社, 2016年）、編著に『最強の社会調査入門』（ナカニシヤ出版, 2016年）。

主催：テニュアトラック教員（朴講師）育成グループ

協力：国際文化学研究推進センター(Promis)

問い合わせ先：青山 薫 (kaoru@tiger.kobe-u.ac.jp)